

宮古市の復興計画について

去年の震災で壊滅的な被害を受けた市町村の一つ、宮古市。

総人口 5 万 7000 人のうち、死者・行方不明者 505 人を出した市である。

宮古市の中心産業である水産業を担う港、沿岸の田老地区、宮古地区重茂地区は津波によって壊滅してしまった。

そして、わが社歴研は 8 月 16 日から 8 月 17 日まで、この宮古市に合宿に行った。

そこで見たものはがれきが一か所にまとめられ、空き地に雑草が生えた宮古市の姿だった。

まだまだ復興していないことを実感した私は、この内容を書くことを決めた。

宮古市作成の復興計画をもとに、地区別に新しい宮古市の姿に迫っていきたい。

田老地区

田老地区では、津波によって壊滅した漁業施設などの復旧を進めながら、三陸縦貫自動車道の整備に合わせて新たな街作りを推進していく。

具体的には、

- ・住居の高台への移転。
- ・漁業の再生、三陸縦貫自動車道の整備による観光産業の拡大などで産業の復興を進める。
- ・倒壊した防潮堤の復旧など、海岸保全施設の整備を進めながら、津波災害の歴史や教訓を広く国内外に伝えるための施設整備や防災教育の充実を図る。

宮古地区

宮古地区では、商店街や観光施設などの産業関連施設の壊滅に伴う職を失った被災者が発生していることから、生活の安定に向けた取り組みを行う。

さらに、防潮堤の整備による安全確保と安全な地域への住宅再建用地の早急な整備も行う。

具体的には、

- ・中心地域では、地盤のかさ上げなどで津波に対する安全性を高める。
中心地域以外では、高台を活用するなどして、安全で安心して暮らすことのできる住宅地の整備を進める。
- ・中心市街地における商店街、観光施設の復興に取り組む。

- ・防潮堤の外部や防潮堤を設置しない地域における避難体制の強化・確保。
- ・コンパクトで快適なまちづくりに取り組む。

重茂地区

重茂地区では、災害時を想定した道路の整備を進めながら、被災した漁港施設や防潮堤などの海岸保全施設の復旧と生活基盤の再建を行う。

具体的には、

- ・安全で安心して暮らすことのできる住宅地の整備を進める。
- ・被災した漁港施設や防潮堤の復旧を進め、水産業の復活を目指す。
- ・災害に強い道路整備を進める。

こうして書いてみると、宮古市の中心産業である漁業の復興、住居の高台移転というものが多い。やはり、経済の活性化、住民の安全確保が最優先だろう。

——復興のためには、何が必要か。

復興に必要なもの、それは知恵と経験と理解ではないだろうか？

これまでの経験、先人の知恵によって、このような復興計画がつくられ、実際に進行していく。

先人の知恵ほど参考になるものはない。

「地震が来たら海から離れろ」なども先人の知恵である。経験も似たようなものだ。

そして、理解。がれきが放射能の影響などで処理できないというケースが数多くある。

問答無用で押し付けることはどうかと思うが、問答無用で拒否するのもどうかと思う。

処理をお願いするほうも、反対するほうも、そういうことに対するはっきり知識が必要ではないか。

お互い「理解」することが大切である。